

地区懇談会 説明資料（小千谷市立小中学校の在り方 答申について）

1 小千谷市立小中学校の現状

児童生徒数の今後の見込み

（令和7(2025)年 ➡ 令和13年(2031)年）

□ 小学生：1,321人 ➡ 963人 △27.1%減

□ 中学生：795人 ➡ 632人 △20.5%減

複式学級*の発生

- 東山小：平成17年から複式学級が発生
- 吉谷小：令和2年から複式学級が発生
- 和泉小：令和4年から複式学級が発生
- 南小：令和10年から複式学級が発生する見込み

*異なる学年をひとまとめにした学級であり、教員がどちらかの学年を指導している間、もう一方の学年は自習をしている

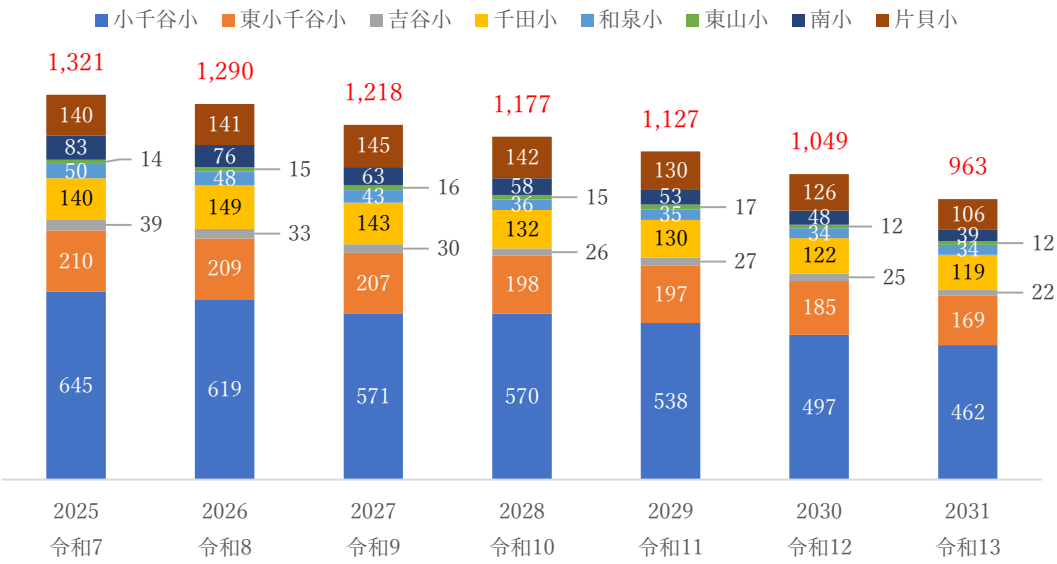
専門の免許を持つ教員の不足

- 中学校においては、小千谷中以外の4校で全ての教科(9教科)で専門の教員を配置できていない

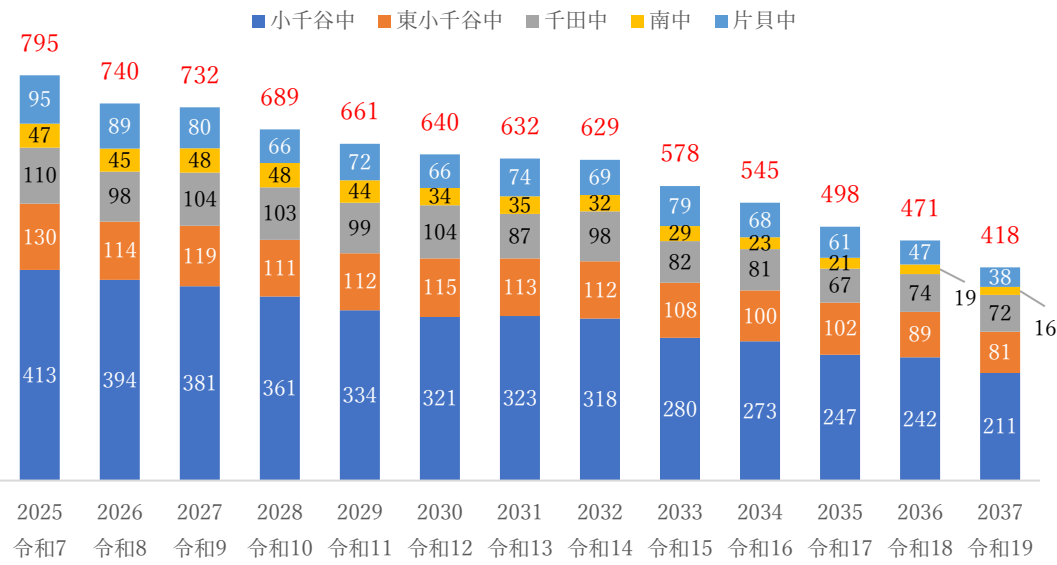
学級数による学校規模の分類(特別支援学級を除く)

学校規模の分類		過小規模校	小規模校	標準規模校	大規模校	過大規模校
学級数	校種	小 1～5 中 1～2	小 6～11 中 3～11	12～18	19～30	31～
令和7年度	小学校	吉谷小 4 和泉小 4 東山小 3	東小千谷小 7 千田小 6 南小 6 片貝小 6		小千谷小 21	
	中学校		東小千谷中 5 千田中 4 南中 3 片貝中 3	小千谷中 12		
<参考> 令和13年度 試算	小学校	吉谷小 3 和泉小 4 東山小 3 南小 4	東小千谷小 6 千田小 6 片貝小 6	小千谷小 15		
	中学校		小千谷中 9 東小千谷中 4 千田中 3 南中 3 片貝中 3			
<参考> 令和19年度 試算	中学校		小千谷中 6 東小千谷中 3 千田中 3 南中 3 片貝中 3			

小学校 児童数の推移



中学校 生徒数の推移



2 小千谷市における望ましい教育環境について（答申）

1 適正な規模について

■ 学校の適正な規模の考え方

□ 複式学級の解消・クラス替えの実施

- ▶ 全ての学校が満たすべき最低限の基準として、教育課程上の制約が生じる複式学級の解消
- ▶ 中学校においては、多様な価値観に触れることができ、人間関係の固定化を防ぐことができるクラス替えの実施

□ 教育の質の確保

- ▶ 一定の教員数を確保し、より質の高い教育の実現
- ▶ 中学校においては、全ての教科(9教科)で免許を持つ専門教員の配置

□ 集団生活を通じた社会性の育成

- ▶ 同年代の仲間との豊かな人間関係の構築
- ▶ 集団生活による多様な教育活動の展開

● 望ましい学校の適正な規模

小学校 統合後、当分の間は複式学級を解消できる規模
(引き続く2の学年の合計が17人以上)

中学校 全学年でクラス替えが可能となる規模
(1の学年が36人以上)



2 適正な通学距離及び通学時間について

■ 適正な通学距離及び通学時間の考え方

- 子どもたちにとって過度な負担とならないこと
- 中山間地域の地理的条件や・冬期間の積雪・路面状況を考慮
- 通学距離は通学手段に応じた移動可能な範囲
- スクールバスの活用

● 望ましい適正な通学距離及び通学時間

【原則】 通学距離 通学時間を勘案した通学距離

通学時間 小・中学校ともにおおむね1時間以内

3 将来を展望した教育環境の在り方について

■ 多様な価値観、文化に触れ、生きる力を育む環境の整備

- 集団による教育活動の機会の保障
- 互いに協力・切磋琢磨し合える環境
- 適正規模となっても小規模校の「よさ」をいかす体制づくり
- 柔軟な運営体制を構築し、学校がもつ独自の魅力の継承

■ 小千谷市の自然、歴史、人材をいかした、ふるさとに誇りを持てる教育

- 地域への誇りや愛着を育むことができる教育の実践
- 地域住民が教育活動に積極的に参画できるような「地域と一体となった学校教育」の推進

■ 通学の安心安全の確保

- 地域との連携
- スクールバスの計画的な運行体制の確立、運転手の安定的な確保